

《共通基礎科目 教養教育科目》

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	井上 敏孝				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・秋期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教養教育-1 国際社会に貢献できる人材育成 ○ 教養教育-2 豊かな人間性の醸成 ◎ 教養教育-3 コミュニケーション能力の向上 				

《授業の概要》

本講義では憲法に関わる具体的な事例や判例をより多く取り上げることで、憲法問題を“わがごと”として捉え、学生が主体的に取り組める活動を多く取り入れた内容とする。具体的には講義形式に加えて判断の分かれるテーマについて討議や演習、学んだ内容を自分の言葉で表現する活動を行う。

《テキスト》

教科書：「スタート憲法」吉田仁美 編著 成文堂

《参考図書》

有斐閣『ポケット六法』（最新年度刊）

《授業の到達目標》

わが国の「最高法規」である日本国憲法について基礎的な知識を習得するとともに、獲得した知識を駆使し、判断の分かれる課題に対しても解決への道筋を見出すことができるようになる。また具体的な事例を多く取り上げ、実生活の中で感じる「憲法問題」について理解を深める。さらには教育現場での憲法を巡る判例や事例を講義内で扱うことで、学生が主体的かつ実践的に憲法を学ぶ機会とする。

《授業時間外学習》

授業内で討議を行う際は、事前に課題を出すことがある。その際は教科書及び参考図書をよく読んで、自身の考えをまとめて授業に臨むこと。また日頃から憲法に関する新聞記事やニュースに目を通し、自分なりの視点や意見を持つておくこと。

《成績評価の方法》

授業への参加度・貢献度（30%）、小レポート（20%）、授業終了時のレポート（50%）を加えて総合的に評価する。5回以上欠席した場合は、レポートを受け付けない。

《備考（教員経験の有無）》

随時発問や活動を加えつつ授業を進めていくので、積極的な姿勢での参加が望ましい。この教科は中学校の教員経験に基づき構成しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンスと日本国憲法のあらまし	本授業の概要と授業の進め方、評価方法等についてガイダンスを行うとともに、日本国憲法前文の原理等について概括する。
2	近代国家と憲法	近代国家における憲法の位置づけと役割について、近代以前の社会と比較しながら理解を深める。
3	諸外国との比較	諸外国の憲法の成立過程や特色について概括し、日本との比較の視点を持つ。
4	大日本帝国憲法	日本初の憲法のあらましについて理解するとともに、その成立過程と特色について考察する。
5	日本国憲法成立の経緯と歴史的背景	日本が敗戦した後、日本国憲法が成立するまでの歴史経緯について理解する。
6	戦前と戦後の憲法	戦前の大日本国憲法と戦後の日本国憲法の連続性と非連続性について分析を行う。
7	第1条と天皇	日本と天皇、さらには皇室との関係について憲法の条文から読み解く。
8	国家と個人	国家と個人との関係について憲法の条文を通して理解を深める。
9	国民の義務と権利	国民の三大義務について理解し、憲法で明記された権利と、その課題について分析する。
10	安全保障と平和主義	我が国が抱える「憲法9条」の問題について深く理解するとともに、さらには日本をめぐる安全保障環境の変化と「平和主義」の課題について考察する。
11	直接民主制と間接民主制	憲法で示されている統治機構の特徴を把握し、日本における「民主主義」について検討する。
12	憲法改正と国民投票	憲法改正の手續と条件を理解する。
13	「憲法優位説」と「条約優位説」	「国の最高法規」としての憲法と条約をはじめとした国際法規との関係性について考察する。
14	教育現場における憲法	教育現場における憲法問題等について、具体的な事例を用いつつ検討する。
15	まとめ	本授業で学んだことを総括するとともに、レポート課題を発表する。